

(・小論文 ・総合問題 ・日本語作文) 出題意図

文 学 部 人 文 学 科 (課 程)

専攻 (コース, 系)

○ 試験の種別

- ・ 総合型選抜 (ディスカバリー入試)
- ・ 総合型選抜 (大学入学共通テストを課すもの)
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰ (大学入学共通テストを課さない)
- ・ 学校推薦型選抜Ⅱ (大学入学共通テストを課すもの)
- ・ 社会人選抜
- 私費外国人留学生選抜

SDGsにおける17の目標	4.質の高い教育をみんなに
問い一 「言葉遊び」とは、単語や文字をレゴ・ブロックのように自由に組み合わせて、「リゴンゴン」のような特定の対象を指すわけではない言葉を作ったり、「リングはクジラだ」や「丸い四角形」のような論理的にありえない言葉を作ったりすること。言語のもつ、現実と根差しながらも現実そのものや現実の行為から切り離して使うことができるという性格によって、このような「言葉遊び」が可能になる。 問い二 私たち人間はみな、物質的な現実から切り離された言語によって作り出される、一種の仮想現実（ヴァーチャル・リアリティ）に常に取り囲まれている。したがって、環境ごとにそれぞれの言語のルールによって構築された異なる言語的現実が存在するとしても、人間である以上、そのような言語化された現実の外に出ること、つまり言語によって媒介・表現されていない純粋に物質的な世界で生きることは不可能なのである。 問い三 言語が現実にとっての他者であるために、現実にはありえない絵空事からなる物語を描くことが可能になる。哲学において抽象的な概念を用いて議論を行ったり、自然科学において化学式を用いてさまざまな現象を説明したりすることなども、言語の他者性によって可能になることの一部である。また、水を「生命の源」と呼ぶことも、「H_2O」と表記することもできるのは、言語が現実と一対一対応しておらず、異なる条件下では異なる言語化が可能だからである。このような表現の多様性も、言語の他者性に起因している。以上のような内容を、具体例を挙げながら論じて欲しい。	